



2022.10.3 PRESS RELEASE 2022-02
なごや日本博事業実行委員会

名古屋城と熱田台地を結ぶ堀川を舞台にした現代アートイベント

streaming heritage 2022 「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」 詳細プログラムを発表します！

2020年度より開催している「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」は先端技術・アート・地域文化（歴史・風土・自然）を組み合わせ、芸術文化による都市魅力の向上を図るイベントです。

「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」に参加するアーティストとプログラムをご紹介します！媒体をお持ちの方は情報の掲載や取材をご検討いただけますよう、よろしくお願いいたします。

開催概要

streaming heritage 2022

ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ

会期：2022年11月3日（木・祝）～20日（日）

*期間中の金土日祝に開催

会場・時間：

*会場によって観覧期間・時間が異なりますのでご注意ください。

- ◆名古屋城 9:00-16:30
- ◆四間道（伊藤家住宅、エスプラナードギャラリー）
11:00-19:00
*エスプラナードギャラリーは11/11～13の3日間のみ展示
- ◆納屋橋（シャムズガーデン） 日没-20:00
- ◆松重閘門（中川運河ギャラリー） 11:00-19:00
- ◆熱田・宮の渡し *詳細はWebサイトで発表

主催：なごや日本博事業実行委員会

[構成団体]

名古屋市、ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会、
公益財団法人名古屋まちづくり公社、名古屋商工会議所、中日新聞社

助成：令和4年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（文化庁）

協力：エスプラナードギャラリー、サイアムガーデン、株式会社大雪木工、一般財団法人NISSHA財団、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]、ディーキン大学（オーストラリア）、名古屋学芸大学、名城大学

企画体制：秋庭史典、江坂恵里子、河村陽介、伏木啓、山田亘

参加アーティスト・会場

(*50音順)

1980YEN(いちぎゅつぱ)

エレクトロニコス・ファンタスティコス!

久保寛子(くぼひろこ)

近藤正勝(こんどうまさかつ)

斉田一樹(さいたかずき)+むぎばやしひろこ+三原聡一郎

人長果月(ひとおさかつぎ)

藤本由紀夫(ふじもと ゆきお)

phono/graph(ふおの/ぐらふ)

三原聡一郎(みはら そういちろう)

パフォーマンス・トーク

11月6日(日) トーク

ストリーミング・ヘリテージ | リサーチプロジェクト

会場：名古屋都市センター

11月11日(金) アーティストトーク

藤本由紀夫

会場：モアチェモアチェ

11月11日(金) アーティストトーク

斉田一樹+三原聡一郎 [ゲスト] 畠中実 (ICC主任学芸員)

会場：エスプラナードギャラリー

11月19日(土)

エレクトロニコス・ファンタスティコス! パフォーマンス

会場：名古屋城 西之丸

11月20日(日)

1980YEN パフォーマンス

会場：宮の渡し公園(宮の浜市会場内)

*パフォーマンス・トークの時間やお申込み方法など、詳しくは Web サイトで発表いたします。

■ ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ 2022 見どころ

最終回にあたる今回の見どころは、場所がもっていたその場所らしさをあらためて創出すること、すなわち「場所性の再インストール」にあります。以下、簡単に紹介していきます。

1. 名古屋城西之丸では、**エレクトロニコス・ファンタスティコス!**は、築城時の熱気やお城で繰り広げられたさまざまなお祭りの賑わいを甦らせる《名古屋城電磁行列》を繰り広げます(11/19のみ開催)。また城内御深井丸では、**久保寛子**による巨大な《ハイヌウェレの彫像》が展示され、みなさんを驚かせることでしょう。
2. 堀川の開削当初の終点・宮の渡し会場では、**1980YEN** (イチキュッパ) が熱田の賑わいを彷彿とさせるパフォーマンスを行います(11/20のみ開催)。
3. 堀川沿いの四間道に静かに佇む伊藤家会場には、そうした賑わいと対照的な「静謐さ」を堪能できる作品が用意されています。江戸時代の商家建築を舞台に、**藤本由紀夫**、**phono/graph**による静寂と音響の交差する作品(BIG BOOKほか)、そして、室内に異空間を現出させる**近藤正勝**のランドスケープ作品が展示されるのに加え、近隣のエスプラナードギャラリーでは、そうした静謐な環境にきわめて繊細に応答する作品《moids ver.2》(**斉田一樹+むぎばやしひろこ+三原聡一郎**)も期間中3日間の限定になりますが、展示されます。
4. 納屋橋会場では、**人長果月**が、堀川の上流・黒川、猿投橋付近に取材した生態系を素材とする映像作品(《biosphere-Kurokawa》)を堀川沿いにあるビルの壁面に投影し、堀川のさまざまな姿を、あらためて多層的に見せてくれます。
5. 今回新たに会場となった、堀川と並んで名古屋市の水運を支えた中川運河との交点にある松重閘門すぐ近くの中川運河ギャラリーでは、**三原聡一郎**が、見えない空気を見えるようにすることで生態系を可視化する作品《空気の研究》で、場所性にアプローチします。

期間中にはパフォーマンスや展示に加え、**アーティストやゲストを招いたトークイベント**も行われます。ぜひお楽しみください。

■ 参加アーティストプロフィール

◆ **名古屋城 (9:00-16:30)** *名古屋城入場料が別途必要になります



久保寛子

広島県生まれ。2013年テキサスクリスチャン大学美術修士課程修了。先史芸術や民族芸術、文化人類学の学説の研究をベースに、身の回りの素材を用いて、農耕と芸術の関係などをテーマに作品を制作する。2017年「六甲ミーツアート」にて大賞を受賞。主な展覧会に「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.10ここに境界線はない。/?」(高松市美術館、2022)、「さいたま国際芸術祭」(2020)、「いのち耕す場所ー農業ひらくアートの未来」(青森県立美術館、2019)、「Ascending Art Annual Vol.2 『まつり、まつる』」(スパイラルガーデン、2018)、「瀬戸内国際芸術祭2016」など。2017年より夫の水野俊紀と共に「オルタナティブスペース コア」を運営している。

〈展示〉

会場：名古屋城 御深井丸



Photo by Florian Voggeneder

エレクトロニクス・ファンタスティコス! *11/19のみ

和田永

アーティスト/ミュージシャン。物心ついた頃に、ブラウン管テレビが埋め込まれた巨大な蟹の足の塔がそびえ立っている場所で、音楽の祭典が待っていると確信する。しかしある時、地球にはそんな場所はないと友人に教えられ、自分でつくるしかないと今に至る。2009年にオープンリール式テープレコーダーを演奏するグループ「Open Reel Ensemble」を結成。2015年より始動した「エレクトロニクス・ファンタスティコス!」により、第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

エレクトロニクス・ファンタスティコス!

2015年始動。和田永が中心となり、あらゆる人々を巻き込みながら、役割を終えた電化製品を新たな「電磁楽器」へと蘇生させ、オーケストラを形づくっていくプロジェクト。現在、東京・京都・日立・名古屋に活動拠点を設け、「電磁民族音楽」や「電磁盆踊り」「電磁行列」を夢想しながら創作活動を続けている。

〈パフォーマンス〉*要申込

日程:11月19日(土) *詳細はWebサイトで発表

会場:名古屋城 西之丸 *雨天の場合、会場を変更し開催

◆四間道〈伊藤家住宅〉(11:00-19:00)



近藤正勝

愛知県生まれ。1993年、スレードスクール・オブ・ファインアート卒業、在学中ロンドン大学からThe Wilson Steel Memorial Medalを受賞、1997年には「John Moores Liverpool Exhibition 20」で2nd Prizeを受賞。主に自然界をアートフィッシャルに解釈するランドスケープ絵画を制作する。主な展覧会に「エレメント」(THE CLUB、2021)、「沈黙の時に」(All Visual Arts、2012)、「Prime」(東京オペラシティ アートギャラリー、2000)、「Surface」(Nederlands Foto Instituut、2001)、「相対的普遍」(コオジオグラフィギャラリー、1996)など。

〈展示〉

会場:伊藤家住宅



藤本由紀夫

愛知県生まれ。1975年、大阪芸術大学音楽学科卒業。70年代よりエレクトロニクスを利用したパフォーマンス、インスタレーション、80年代半ばよりサウンドオブジェの制作を行う。音を形で表現した作品や、空間を利用した独自のテクノロジーアートを発表。「here & there」「separation & conjunction」「revolution & gravity」「silent & listen」といったキーワードで、日常の何気ない物事に注目し、「聞く」という体験を通して、「音」という存在の不思議を表出し、新たな認識へと開いていくような活動も行っている。2001年と2007年に、第49回および第52回ヴェネツィア・ビエンナーレに出展。

〈展示〉

会場:伊藤家住宅

〈アーティストトーク〉*要申込

日程:11月11日(金)

会場:モアチェモアチェ



phono/graph

2011年、様々な分野で活動しているメンバーが、専門領域や世代を超えて集い、音/文字/グラフィクスについて柔軟な思考で取り組み、実験的な表現を通し、メディアと生活との関係を考察することを目的に結成。大阪を皮切りに、これまでに東京、名古屋、京都、神戸、ドルトムント(ドイツ)で作品を発表している。現在のメンバーは岸本倫子、林葵衣、貞雄大、鈴木大義、城一裕、intext、八木良太、ニコール・シュミット、softpad、藤本由紀夫。

〈展示〉

会場:伊藤家住宅

◆四間道〈エスプラナードギャラリー〉(11:00-19:00 *11/11(金)~13(日)の3日間のみ展示)



齊田一樹+むぎばやしひろこ+三原聡一郎

2004年より、齊田一樹、むぎばやしひろこ、三原聡一郎らによって活動を開始。非中心的な音のインスタレーションや、限りなくミニマルな音の入出力機能を実装した回路群によって外界と繊細に呼応する3つの有機的な音響環境をつくりあげる。国内外の幅広い音響環境で継続的に発表を続けている。

〈展示〉

会場:エスプラナードギャラリー
*11/11(金)~13(日)の
3日間のみ展示

〈アーティストトーク〉*要申込

齊田一樹+三原聡一郎
ゲスト:畠中実(ICC主任学芸員)
日程:11月11日(金)
会場:エスプラナードギャラリー

◆納屋橋(日没-20:00)



人長果月

美術家。京都府生まれ。1990年代後半よりデジタル技術を用いた映像作品の制作を始め、2000年からは、映像にコンピューターやセンサー技術を組み合わせた双方向性を持ったインスタレーションを制作。近年は植物や微生物などを実地で撮影することでもたらされる微細な感覚をもとに、自然界の複雑な在りようを、光・音、鑑賞者の振る舞いによって創出することを試みている。主な展覧会に「Kyoto Art for Tomorrow 2022-京都府新鋭選抜展-」(京都文化博物館別館ホール、2022)、「KYOTO STEAM-世界文化交流祭-アート×サイエンス IN 京都市動物園 アートで感じる?チンパンジーの気持ち」(京都市動物園、2019/2020)、「再生の庭」(藝倉美術館、2017)、「消滅の夢」(ベラクルス州立大学、2016)など。2022年京都府文化賞奨励賞。

〈展示〉

会場:納屋橋シャムズガーデン

◆松重開門(11:00-19:00)



三原聡一郎

世界に対して開かれたシステムを提示し、音、泡、放射線、虹、微生物、苔、気流、土、水そして電子など、物質や現象の「芸術」への読みかえを試みている。2011年より、テクノロジーと社会の関係性を考察する「空白のプロジェクト」を展開。近年は、方法論の確立していない音響彫刻やメディア・アート作品の保存修復にも携わる。主な個展に「空白に満ちた世界」(クストラウム・クロイツベルク/ベタニエン、2013/京都芸術センター、2016)、グループ展に「第11回恵比寿映像祭」(東京都写真美術館、2019)、「札幌国際芸術祭2014」、「サウンドアート——芸術の方法としての音」(ZKM、2012)など。展覧会キュレーションに「空白より感得する」(瑞雲庵、2018)。共著に『触楽入門』(朝日出版社、2016)。

〈展示〉

会場:中川運河ギャラリー

〈ギャラリートーク〉

日程:11月3日(木・祝)・12日(土)・20日(日)
会場:中川運河ギャラリー

◆熱田・宮の渡し(11/20のみ開催)

1980
1980
1980

1980YEN

盛りカルチャーと蟹に注目しているグループ。現代日本のファストカルチャーを大胆にサンプリングし、音楽と美術を掛け合わせた表現で活動。2009年の結成以来、クラブや音楽フェスなどでの活動のみならず、現代アートの国際展へ積極的に参加。横浜トリエンナーレ、文化庁メディア芸術祭、六本木アートナイトなどで作品を発表している。

〈パフォーマンス〉

11月20日(日)*詳細はWebサイトで発表
会場:宮の渡し公園(宮の浜市会場内)

■連携

今回、名古屋市と同じユネスコ・デザイン都市のジロング市からディーキン大学の学生達が制作・運営に参加します。ストリーミング・ヘリテージと同時期に開催する、ほかの名古屋市内のイベントとも連携しております。名古屋の魅力が詰まっているイベントです。



■SNSも随時更新中！

最新情報更新はこちらからもチェックできます。



Webサイト



Instagram



Twitter

■新型コロナウイルス感染症対策に関して

新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で実施いたします。ご来場に際しては、以下の点にご留意くださいますよう、お願い申し上げます。

- ・屋内や屋外のパフォーマンス・展示などに関わらず、ご来場の皆様にはマスクの着用をお願いします。
- ・手洗いと手指消毒、咳エチケットへのご配慮、社会的距離の確保にご協力をお願いします。
- ・各会場では検温を行います。37.5°C以上の発熱があると認められた際は、ご入場をお断りさせていただきます。
- ・混雑や人の密集を避けるため、各会場ごとに人数制限を設けています。混雑時には、お待ちいただく場合がございます。

お問い合わせ：なごや日本博事業実行委員会事務局

〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目11-24 長者町コットンビル2A

TEL：052-232-7260

広報に関するお問い合わせ：press@streamingheritage.jp



ストリーミング・ヘリテージ広報用画像

広報用参考画像、ポートレートなど画像をご入用の方は、press@streamingheritage.jpまでご連絡ください。

1. エレクトロニコス・ファンタスティコス!



エレクトロニコス・ファンタスティコス! 《Electric Fan Harp》
制作：和田永+武井祐介+鷺見倫一+Nicos Orchest-Lab
Photo by Mao Yamamoto

2. 久保寛子



久保寛子 《ハイヌウェレの彫像》2020

3. 近藤正勝



近藤正勝 《A BIRD IN THE DARK》2020 (左)、
《HIDDEN LAND_s (Side Bush Bank)》2018 (右)
©Masakatsu Kondo

4. 藤本由紀夫



藤本由紀夫 《RECORD》2001、名古屋市美術館蔵

5. phono/graph



phono/graph 「phono/graph」展、Dortmunder U (ドイツ)、2012 Photo by Clemens Müller

6. 齊田一樹+むぎばやしひろこ+三原聡一郎



齊田一樹+むぎばやしひろこ+三原聡一郎
「SEA2010 RUHR」(Dortmunt kunstverein、2010)での展示風景

7. 人長果月



人長果月 《Biosphere》2017

8. 三原聡一郎



三原聡一郎 《空気の研究》2017
Photo by Tadasu Yamamoto Courtesy of Tsushima Art Fantasia

9. 1980YEN



1980YEN 《ネ申ネ申ネ申》2010
©1980YEN

10. ロゴ(縦)



11. ロゴ(横)



streaming heritage 2022
ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ ロゴ
デザイン：服部一成